



県庁舎建設課の皆さんは約200人の作業員とともに、安全第一で作業を進めます

平成28年2月撮影

# 県の お仕事 レポート

もっと知りたい!  
長崎県庁では  
vol.20  
どんな仕事をしているの?

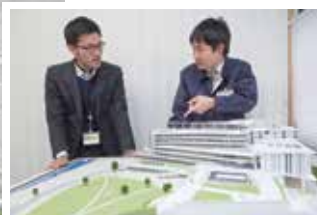
県庁舎建設課のお仕事。

## 県民の皆さんが気軽に利用でき 積極的に県政に参加してもらえるような 新庁舎づくりに取り組んでいます!

老朽化などに伴い、移転準備が進む県庁舎。  
長崎のまちにふさわしく、  
県民にも、環境にもやさしい空間を目指しています。



【南側からみた新県庁舎全景】  
※イメージです

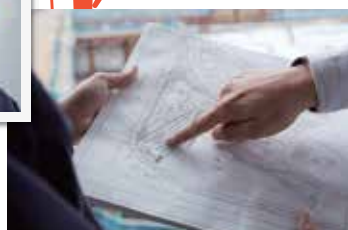


どうすれば快適な環境と効率的な運用を両立できるのか建築模型を前に、お互いの考えを確かめ合います



「コミッションングの取組が他の官公庁をはじめ、全国的に広がることで、環境にやさしい社会の実現につながります」と佐藤さん

### 県庁舎建設課のお仕事にちょこっと密着!!



図面と照らし合わせながら工事の進捗具合を確認

平成29年度の完成を目指し、着々と進められている新庁舎の建設。巨大クレーンが空高く伸び、ダンプカーやトラックが毎日忙しそうに出入りしています。移転場所は、長崎港に面した長崎魚市跡地。JRR長崎駅に程近く、県民の皆さんも気軽に立ち寄れる場所です。

今回は「県民とともに新しい時代を切り拓く庁舎づくり」を行うため、5年前に新設された県庁舎建設課のお仕事を紹介します。

新庁舎の基本方針の一つ「県民サービス向上のための機能的で新時代環境共生型の庁舎」を実現するため、官公庁で初めて「コミッションング」を導入し、省エネルギーで環境に配慮した庁舎づくりを目指す県庁舎建設課の皆さん。建設班の佐藤晃平さんは、その中でも主に空調の省エネの担当です。「空調設備は建物のエネルギー

消費量の約半分を占めると言われています。これをぐっと抑えることができれば、低コストで庁舎の運用が可能になるんです」と熱く話します。

新庁舎は空調の省エネに加えて、LED照明や自然エネルギーを活用するほか、省エネ効果を計測し、分析することができ、システムを導入します。「庁舎が完成した後も最適な運用を行っているか、継続的に検証することで、従来より年間40%ほど削減できるのではないか」と佐藤さんは見込んでいます。

また新庁舎は、県民の皆さんが快適に利用できる空間づくりにも力を入れています。「目指すのは県民に優しく、県民が親しみを感ずる庁舎です」と意気込むのは、総務調整班の川野元己さん。例えば、行政棟の1階エントランスホールでは県政や観光などの情報を発信したり、キッズエリアや授乳室を設置したり。さらには2階には食堂、最上階には展望テラスを設け、長崎港や長崎市街地の眺めを楽しめるようにもなるそうです。「県庁に用事がなくても訪れてもらえるよう、さまざまな工夫を考えています」と、川野さんは笑顔で語ってくれました。

現在の県庁舎は建設から約65年。市内22カ所に分散する各部署なども二つに集約され、低層化することで周辺の街並みにも配慮されています。新しい長崎のシンボルとして生まれ変わる、県庁舎の誕生が待ち遠しいですね。

※コミッションング…発注者や設計者、施工者だけでなく、高度な技術と知識があり、工事に利害関係のない第三者が加わって性能検証管理を行うこと。これにより設計や施工の良し悪しが正しく評価され、発注者の求める省エネ性能などの実現につながる。

新庁舎が県民の安全・安心を支える防災拠点施設として、さらに広く県民に開かれ、気軽に訪れて利用できる庁舎になるよう、県庁舎建設課の皆さんとともに今後もしっかりと建設を進めています。

長崎県知事  
中村法道

「現在の食堂は88席ですが、新庁舎ではテラスも含め200席を用意しています。眺めもいいので完成を楽しみにしてください」と川野さん